

薬学の宝、薬学の希望

薬学部長

ありた
有田

まこと
誠君



有田誠教授は薬学の世界で知らぬ人はいない「薬学の宝」です。

生体はタンパク質や核酸の他に、多種多様な脂質（リピッド）で構成されています。有田君はリピッド・バイオロジーの専門家として我が国を代表する科学者です。

これまでに、新学術領域研究「リポケオリティ」（平成二十七年から平成三十一年）の領域代表として、様々なバックグラウンドをもつ全国の研究者を率いて成果を挙げてきました。さらに、令和三年にはERATOの研究統括に選ばれ、「有田リビドームアトラスプロジェクト」を主宰して脂質多様性の理解による生命現象と疾患の解明を目指した研究に取り組んでいます。ERATOは我が国の基礎研究を支える大型研究プロジェクトで、これまでに延べ一四五名が研究統括に選ばれ、ノーベル賞の受賞に繋がった成果も出ています。ERATOの四〇年の歴史の中で、義塾教員が選ばれたのは有田君が四人目です。全国の薬学部・薬科大学の教員でもこれまでに四人しか選ばれていません。

このように科学者としては文句のつけようのない有田君ですが、はたして学部長としてはどうなのでしょう？

私は先日まで薬学部長の任にありました

が、さまざまな場面で大学院専攻長である有田君に意見を求めました。このとき有田君から「筋がいいかどうか」と幾度も訊かれました。組織の運営には「良い筋」と「悪い筋」の二つがあります。有田君の凄さはその大局観にあります。科学者としての成功の秘訣もそこにあるでしょう。自身で価値を創造しつつ、複眼的な視点から「筋のよさ」を見極めるセンスに長けているところ、そこが有田君の抜群の強みだと思います。

薬学部教員の中には、大きな研究プロジェクトを率い、理化学研究所のチームリーダーも兼務し、その上で学部長とは、「あまりにも忙し過ぎるのではないか」と心配する声もあります。その点、私は有田君が学部長選挙の所信表明で、「私は基本、人が好きなので」と書いているのを見て膝を打ちました。これまで、有田君が「時間がない」とあたふたしているところを見たことがありません。どんな時にも肝の据わった人生の達人として、これからの学部長の仕事も楽しみに違いない。

有田君は、この人についていけばがっかりさせられることはない、と思える飛び抜けた存在です。この人に薬学部の将来を託します。

薬学部教授 三澤日出巳